

心に残る文化財子供塾 活動の概要と様子 ～ 奥出雲町立八川小学校 ～

1. 概要

5月14日(火)、奥出雲町立八川小学校で『心に残る文化財子供塾』を開催しました。体験活動に「古代金属鏡作り」を希望されていたので、はじめに「古墳時代」や「鏡」について、県埋蔵文化財調査センターの職員から話を聞きました。古墳時代の人々の技術の高さや、豊富な鏡の種類などについて知り、驚くとともに関心を寄せていました。

次に早速「古代金属鏡作り」に取りかかり、鉄素材を溶かして鋳型に流し込む作業を全員行いました。冷めた鏡を鋳型から取り出す際には、歓声と拍手が自然と起こり、感動していました。鏡を磨く作業では、短時間ではなかなかきれいな鏡面に仕上げることが難しいと知り、当時鏡がいかに精巧に作られ、重要な物であったかを体感しました。

最後に、八川小周辺の古墳見学を行いました。山の斜面に造られた古墳の横穴式石室に入り、当時の横田地域の有力者に思いを巡らせました。また、どの石材が一番大きいか観察し、それをどうやって運んだのか考えました。

2. 様子

1) 奥出雲町内外の遺跡について知る・「古墳時代」と「鏡」について学ぶ



「八川小の周りにはいくつの古墳があるだろう？」



「色々な模様が描かれている方は鏡の“裏”です」

2) 古代体験活動～金属鏡作り～



「金属を流し込むタイミングを見計らいます」



「最後の仕上げ！自分の顔は映るかな？」

4) 古墳の石室見学



「どんな場所に古墳が造られているんだろう？」



「石室に入ってみよう！どの石材が一番大きいかな？」

2. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・鏡の仕上げにつや出し液を使ったけど、昔はそういう物がないのですごいと思った。
- ・古墳や石室を見て、機械のない時代につくったのが驚いた。
- ・奥出雲や八川にはたくさん古墳があることにびっくりした。自分でも探してみたいくなった。
- ・色々な模様の鏡があることを初めて知り、教えてもらいながら作れたので楽しかった。
- ・石室の石をどうやって運んだのか、どうやって鏡の模様を作ったのか気になった。
- ・他の古墳や奥出雲町で一番大きい古墳に行き、調べてみたいくなった。

2) 担任の先生から…

- ・事前に打合せの時間をもて、児童も満足できた学習になった。
- ・驚きや発見など、感動を伴った活動になってよかった。
- ・地元の古墳見学や鏡作りを通して、古代の暮らしを身近に感じ、思考を巡らすことができた。

3) 埋文センターから

社会の授業で既に奈良時代まで勉強してことから、古墳時代について皆さんよく知っていて、興味を持って聞いてくれました。また、八川小周辺には古墳をはじめ遺跡が多数分布しているので、地元の文化財・歴史にも関心が高い様子でした。

鏡作りでは、金属を溶かして鋳型に流し込むところから行ったので、金属の変化の様子を楽しそうに観察していました。磨くだけでも大変な鏡を素材から作ることで、古代の技術に触れるきっかけとなり、当時の人々の熟練した技術や作り手の思いを一層強く感じることができました。

古墳見学では、地元の横穴式石室を訪れ、懐中電灯を片手に中に入りました。当時の造形物の“本物”を目の当たりにして、どうやって、どこから大きな石を運んだのかなど疑問がたくさん生じたようです。奥出雲町にはまだまだたくさんの古墳があることを知ると、「早速家の近くの古墳を探しに出かける！」といった声もありました。